

国際機関、他国・地域（WHO、FAO、OIE、EU、米国、豪州）のアクションプランのうちリスク評価に関連するもの

	WHO	FAO	OIE	EU	米国	豪州
名称	GLOBAL ACTION PLAN ON ANTIMICROBIAL RESISTANCE	THE FAO ACTION PLAN ON ANTIMICROBIAL RESISTANCE 2021–2025	The OIE Strategy on Antimicrobial Resistance and the Prudent Use of Antimicrobials	A European One Health Action Plan against Antimicrobial Resistance (AMR)	NATIONAL ACTION PKAN FOR COMBATING ANTIBIOTIC-RESISTANT BACTERIA 2020–2025	AUSTRALIA’ S NATIONAL ANTIMICROBIAL RESISTANCE STRATEGY - 2020 AND BEYOND
公表年	2015	2021	2016	2017	2020	2020
	○リスク分析がない場合、動物の成長促進や作物保護のための抗生物質の使用を段階的に削減すること、動物衛生における抗菌薬の非治療的使用を削減すること。	○陸上・水中動物の細菌性疾患の原因となる病原体に対して使用される抗生物質の臨床的ブレイクポイントと疫学的カットオフ値を設定するためのデータ収集と国際的取り組みを支援するために協力する。 ○科学的根拠に基づく介入、最小化・封じ込め、政策立案のための薬剤耐性菌のリスク評価を支援する。 ○耐性がどのように発達し、拡散し、部門を超えて循環するか、また AMR と AMU が食品と農業に与える影響に関する学際的な共同研究を支援する。 ○成長促進のための抗菌性物質の停止に関する評価またはパイロットスタディを含む、薬剤耐性菌の影響から食料システムを保護するための経済的評価の研究をサポートする。 ○パートナーと協力して、食品と農業における慎重な抗菌性物質使用のための国際基準の開発、改訂、更新に貢献する。これには、CAC「食品由来AMRを最小限に抑え、抑制するための実践規範」、動物における抗菌薬の責任ある使用のためのOIEガイダンス、作物・植物生産のための農業管理に関する国際行動規範（ICCPM）などがあるが、これらに限定されない。	○加盟国が動物における抗菌薬およびその使用に関連するAMRリスク評価を支援するためのツールおよびガイダンスを提供する。	○EFSAの支援を受けて、動物伝染病の原因となる耐性菌を特定・評価し、必要であれば、その監視のための調和された規則を策定する。 ○環境におけるAMRの調和されたモニタリングのための選択肢を検討する。 ○ECDC、EMAおよびEFSAの支援を受けて、抗菌薬の消費とヒトおよび食品生産動物における抗菌薬耐性の発生との間に考えられる関連性について、証拠に基づくデータを提供する ○環境中の医薬品に対するEUの戦略的アプローチを採用する。 ○環境中の抗菌薬の発生と拡散に関する知識を向上させるために、化学物質モニタリングのための情報プラットフォーム（IPCheM）を利用して関連するモニタリングデータにアクセスするなど、既存のモニタリングのデータを最大限に利用する。 ○環境関連の AMR 問題に関する専門知識を提供する健康・環境リスク科学委員会（SCHER）の役割を強化する。 ○耐性微生物や抗菌薬の環境中への放出とその拡散に関する知識のギャップに関する研究を支援する。 ○科学的な機関や団体の支援を得て、リスク評価の方法論を検討し、環境中の抗菌剤の存在によるヒトや動物の健康へのリスクを評価するために利用する。 ○WHO、OIE、FAO、コーデックスによるAMRに関する意欲的な国際的枠組みや基準・規範・ガイドライン・方法論の策定に関する規範化作業に積極的に貢献し続ける。	○感染症予防と抗生物質耐性の出現・拡大に関する研究を増やし、この研究を感染症予防と抗生物質耐性の拡大防止に活用する。 ○抗生物質耐性の出現、拡散、持続をよりよく理解し、ヒト、動物、農業、環境における抗生物質耐性の緩和策を開発するための基礎および応用学際研究を拡大する。	○リスク評価に関する主な記載はなし。